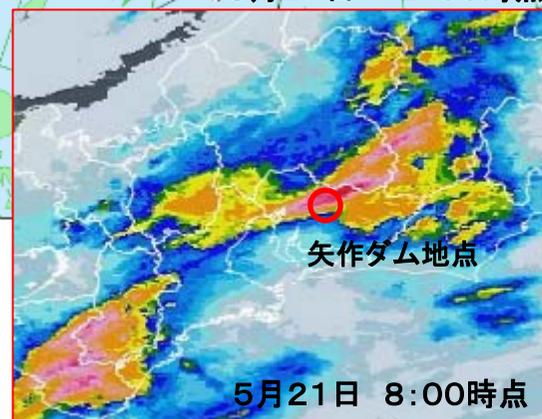
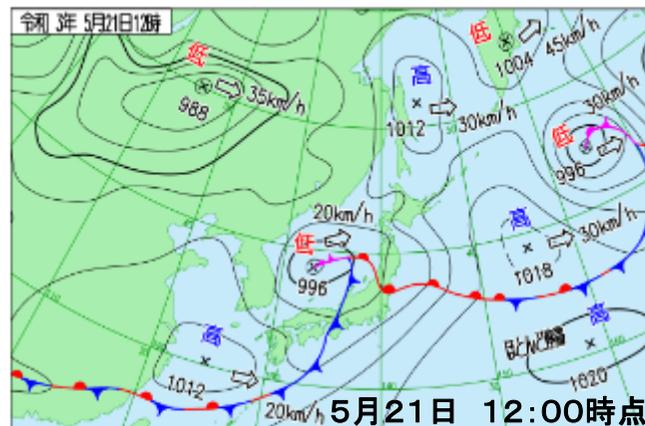
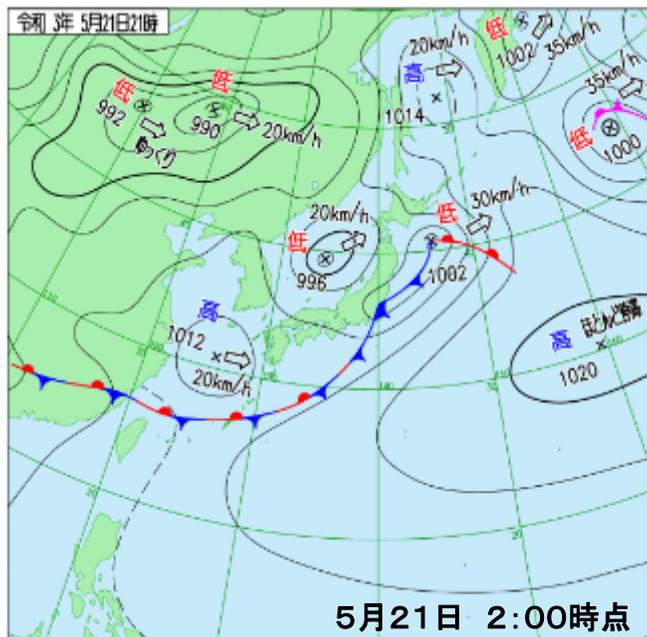


矢作ダムの洪水調節効果【速報版】

○令和3年5月20日からの梅雨前線による降雨は、5月21日早朝より強く降り始め昼頃より猛烈な雨をもたらしました。
○矢作ダムでは、5月20日の降り始めからの累加雨量は167mmを超え、最大時間雨量も流域平均で27.3mm/hを記録しました。
○矢作ダムにおいて、5月に洪水調節を行うことは管理開始以来初めてのことであり、管理開始以来最も早かった昭和47年6月8日を49年ぶりに更新することとなりました。

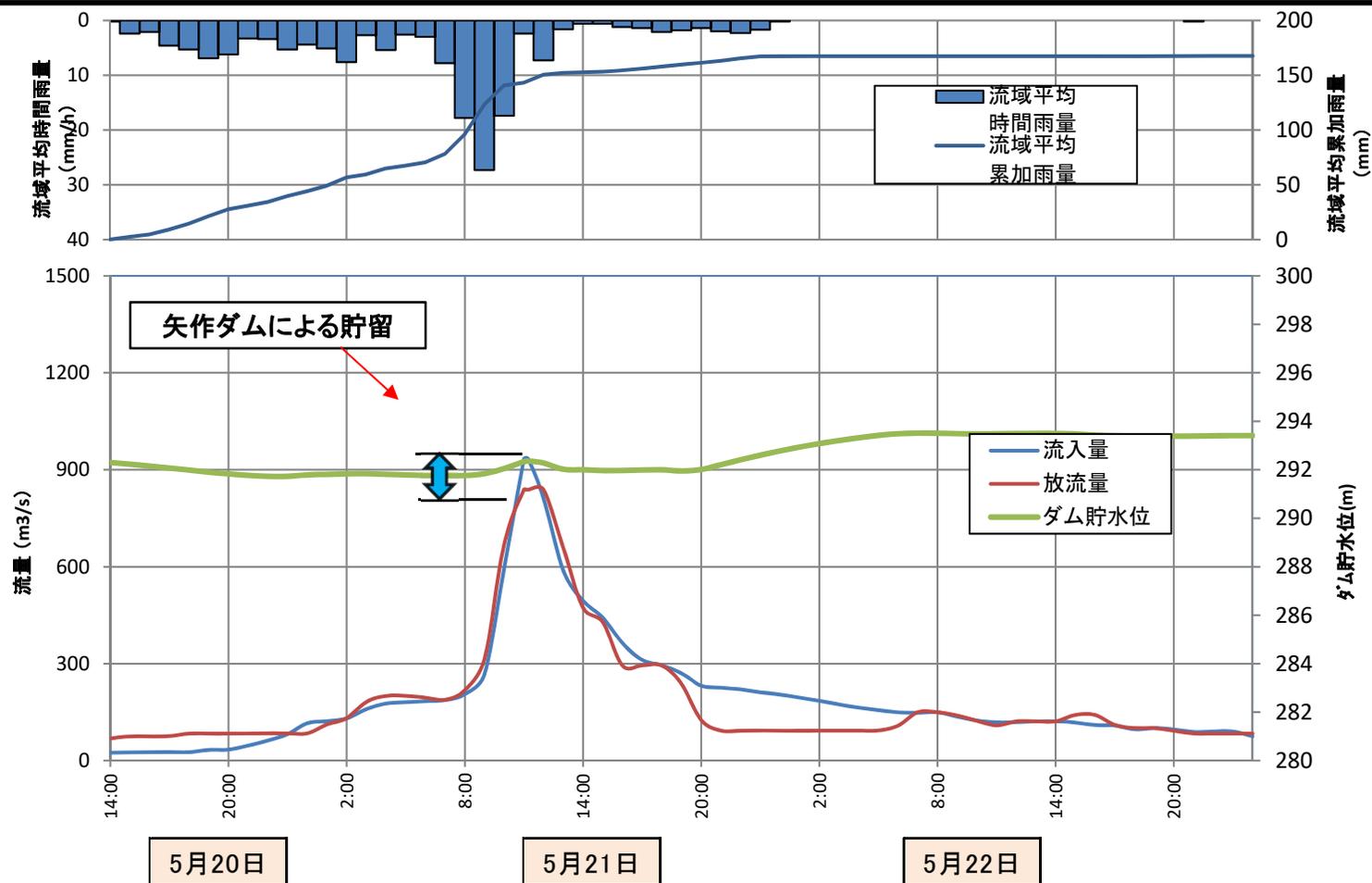


注)この資料は速報として取り急ぎ纏めたものであり、後日一部訂正や追加をすることがあります。

矢作ダムの洪水調節効果【速報版】

○5月20日の降り始めからの累加雨量は167mmを超え、最大時間雨量も流域平均で27.3mm/hを記録しました。

○矢作ダムでは5月20日17:04より防災操作を開始しました。その後、5月21日10時28分に流入量が800m³/sを超過したため、12時03分までの間洪水調節操作を実施しました。



注)この資料は速報として取り急ぎ纏めたものであり、後日一部訂正や追加をすることがあります。

矢作ダムの洪水調節効果【速報版】



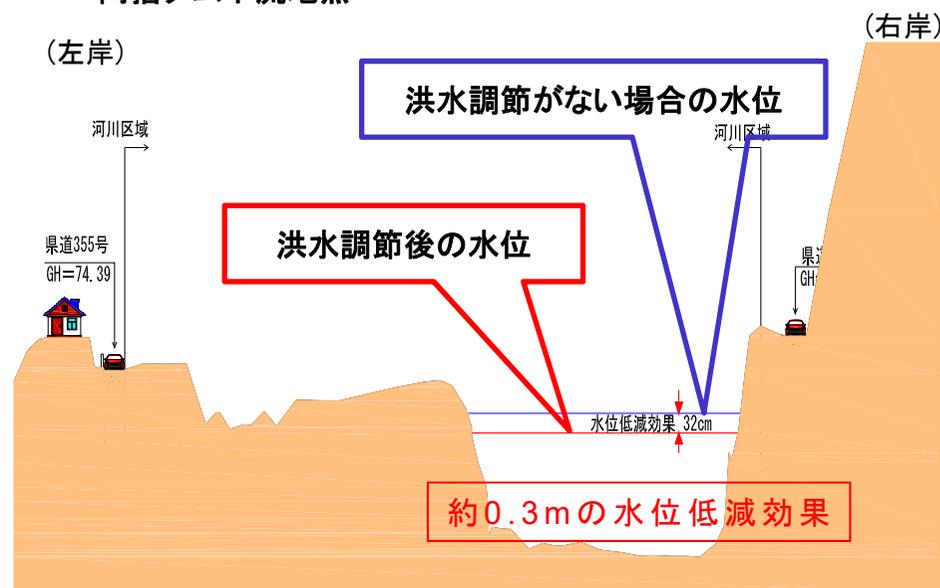
○梅雨前線の影響により、矢作ダム地点で最大流入量 $937\text{m}^3/\text{s}$ を観測しましたが、矢作ダムの防災操作によってダムに洪水を貯留したため、**下流へ流れる洪水の量を最大約 $100\text{m}^3/\text{s}$ 低減**することができました。

○そのため、ダムがない場合と比較して、阿摺ダム下流(河口より 54.2kp)地点において、**約 0.3m の水位低減効果があったもの**と推察されます。

○矢作ダムでは戦後最大洪水となった東海(恵南)豪雨と同程度の洪水が再来した場合でも効率的な洪水調節を行えるよう、引き続き河川改修・ダム整備・ダム再生事業を推進してまいります。



阿摺ダム下流地点



注)この資料は速報として取り急ぎ纏めたものであり、後日一部訂正や追加をすることがあります。